



栗原市立文字小学校閉校記念誌



2012.03



あいさつ

文字小学校 閉校記念誌の発刊に寄せて	栗原市長 佐藤 勇	1
閉校に寄せて	栗原市議会議長 佐藤 千昭	2
文字小学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会教育長 亀井 芳光	3
閉校にあたって	栗原市立文字小学校長 田代 茂利	4
文字小学校閉校にあたって	栗原市立文字小学校 父母教師会 会長 狩野 達也	5

あゆみ

文字小学校・文字幼稚園の沿革	6~10
----------------	------

学校の概要

学区の概要・学校平面図・校舎配置図	11
-------------------	----

校歌・校章

校歌・校旗・校章	12
----------	----

歴代校長・父母教師会会長

歴代校長・父母教師会会長	13
--------------	----

寄稿

子どもの頃の思い出	(新田地区) 阿部 かづみ	14
文字と謂う名の誇り	(下文字地区) 高橋 今雄	15
文字小学校の思い出	昭和19年度卒業 (川西地区) 菅原 敏允	16
文字小学校の思い出	昭和35年度卒業 (山口地区) 菅原 章	17
閉校に寄せて	昭和44年度卒業 (下文字地区) 菅原 才知	18
スポーツ三昧の3年間	平成3年度卒業 (新田地区) 菅原 伸	19
文字小学校での思い出	平成21年度卒業 (川西地区) 千葉 穂乃香	20

写真で見る文字小学校のあゆみ

文字の伝統 (文字甚句・藍染め)	21
文字小学校の教育 (ぶなの木会交流)	22
文字小学校の教育 (運動会)	23~24
文字小学校の教育 (遠足 (大崎市) 宿泊学習 (花山少年自然の家))	25~26
文字小学校の教育 (学芸会)	27
文字小学校の教育 (児童活動)	28~29
文字小学校の教育 (修学旅行 盛岡・花巻)	30
文字小学校の教育 (陸上・相撲・水泳・音楽祭)	31



文字小学校 閉校記念誌の発刊に寄せて

栗原市長 佐藤 勇

秀峰栗駒山のすそのに位置した、自然豊かな山間地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた文字小学校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

文字小学校は、明治6年5月に寺院「洞泉院」を校舎として、開校139年にわたる長い歴史と伝統を築き、文字地区の発展と地域文化の進展に重要な役割を果たしてこられました。

この間、多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、幅広い分野でご活躍されておりますことは、文字地区の皆様のご長年にわたる温かいご支援の賜であり、厚く御礼を申し上げます。

また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様のご並々なご尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史の中で、小学校の合併や法改正による改称などを重ねながらも、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する深い御理解と御協力によりまして、健全な子ども達の育成やPTA活動が活発に行われてきたのが文字小学校であります。

特に、知性と創造力に富み、豊かな情操をそなえた、心身ともに健全で実践力のあるたくましい人間を育成するために、豊かな自然に恵まれたこの土地で、四季の変化を肌で感じながら、二迫川での魚つかみ、鷹ノ巣山への登山、ハタケシメジの栽培活動など、自然とかわる活動が計画的に行われてきました。

また、「ぼくもわたしもやればできるんだ」をスローガンに掲げ、小規模校のよさを生かしながら、家庭的な雰囲気の中で子ども一人ひとりを見つめ、きめの細かな指導を重視した活動を展開されてきたところでもあります。

このような活動が認められ、優良子ども銀行の大蔵大臣賞や学校保健安全優良校の文部大臣賞、学校体育優良校の全国表彰、学校緑化コンクールの宮城県知事賞などを受賞してきたほか、栗原や宮城県内の小学校の中でも、良き模範と



愛藍人・文字（あいらんど・もんじ）

して上げられるものであり、教育環境の美化や健康な子ども達の育成におきましては、地域と学校が一体となった教育が子ども達を健やかに育ててきたものと感じております。

これまで、当校を巣立った皆様にとりましても、母校の閉校は何事にも代え難い寂しさであり、また、地域の皆様のご愛惜の念も深いものと拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ文字の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

栗原市といたしましては、今後も、学府くりはらの実現に向けて、教師と子ども達がしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる、教育環境づくりを目指すとともに、文字小学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。

閉校に寄せて

栗原市議会議長 佐藤 千昭

文字小学校は、明治6年「洞泉院」を校舎として創立され、以来139年もの長きにわたり、子弟の教育、地域社会の発展に貢献され、輝かしい歴史と伝統を築いてこられました。

♪ 仰ぐ栗駒 鷹ノ巣の 山うるわしく

♪ 迫川 流れも清き わが文字

白鳥省吾先生作詞の校歌にあるように、豊かな自然に恵まれた文字小学校は、二迫川での魚取り、鷹ノ巣山への登山、ハタケシメジの栽培、文字甚句の継承など、豊かな山里から学ぶ生きた学習を実践してこられました。学校、家庭、地域が一体となり、温かい人間関係を基盤とした教育は、“徳・知・体”の調和のとれた人間性豊かな児童の育成に繋がっているものと思います。

これまでの数々の荣誉ある足跡は、教育に情熱を注がれた歴代の校長先生をはじめ、諸先生方、PTA並びに地域の皆様方のご尽力の賜物であります。長年にわたる関係各位の献身的なご努力に対し、心から敬意を表するとともに、感謝申し上げる次第であります。

少子化という全国的な問題の中、児童数の減少は今後の教育の在り方に大きな転機をもたらすものであると考えます。次代を担う子どもたちの将来を考え、子どもたちの学習環境を整えるためには、学校の統合というものは避けては通れないものでもあります。

今まであった学校が閉校してしまうことは、地域の一つの文化拠点がなくなってしまうことであり、その寂しさは、卒業生、保護者、職員だけではなく、地域の元気の源として学校を支え続けてこられました文字地区の皆様にとりましても感無量のものがあると思います。

しかしながら、閉校されても今日までの輝かしい歴史や培われた伝統、そして人と人との結びつきや地域のつながりを重んじる熱い思いは、決して絶えることなく、いつまでも受け継がれていくものと確信しております。

在校生の皆さんには、閉校に直面し、寂しさでいっぱいだと思いますが、文字小学校の思い出を胸に、新しい学校に一目も早く慣れて、楽しい思い出をたくさん作ってほしいと願っております。

最後になりますが、これまでご尽力いただきました関係各位の今後益々のご活躍とご多幸を祈念申し上げます。



鷹ノ巣山の冬

文字小学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

平成24年4月、文字小学校は鶯沢小学校と再編し、現在の鶯沢小学校の校舎で新生「栗原市立鶯沢小学校」としてスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました文字地区の皆さまに心より感謝申し上げます。

文字小学校は明治6年、旧文字村の洞泉院を校舎として開校しました。以来139年を経た今日まで、偉大な教育者であります山内才治先生をはじめとして多くの優れた人材を育て、「ふるさとの学校」としての地域の教育振興・文化活動の拠点として歩み続けてこられました。

また、校歌の一節に「仰ぐ栗駒 鷹の巢の 山うるわしく 迫川」と歌われているとおり、恵まれた美しい環境の中で、人を育て、花や自然を愛し環境緑化に努められると共に「文字甚句」や「正藍染」等の伝統や文化を継承もしてきました。

また、体育活動にも力を注ぎ、特に子どもたちの相撲指導を通して体力づくりにも地域が一丸となって取り組んでこられました。

このように地域と共に歩み続けてきた学校がなくなることは、地域の皆さまにとっては計り知れない寂しさや愛惜の念を禁じえないことと思います。

しかしながら、少子化による児童生徒数の著しい減少や複式学級の増加等や急激に変化していく社会情勢を踏まえ、将来を生き抜いていく子どもたちの教育を考えると、学校再編も避けては通れない一つの道でもあります。また、文字小学校と鶯沢小学校の再編は、旧町村の垣根を乗り越えての再編であり地区の皆さまにとって苦渋の決断であったと思います。

昔から、「子どもは地域の宝である」「学校は地域に浮かぶ船である」といわれています。今、再編するにあたっては、学校と地域の新しい結びつきを作り上げていくことが私たちに求められているのであります。

地域に根ざした新しい学校の実現のためには、家庭・地域・学校・関係機関との連携が大切であり、子どもたちだけでなく、地域の方々の交流が強く求められることも事実であります。老若男女を問わず、多くの皆さんが親睦と交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれるような新しい学校を創り上げていただきたいと切に願っております。

子どもたちも地区の皆さんもこれまで受け継がれてきた文字小学校そして平成元年に統合された角ヶ崎小学校の輝かしい歴史や伝統を受け継ぎ、新たな希望を持って「地域と共に歩む新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくれることを信じてやみません。

結びに、これまで永きにわたり学校を支えてこられた地域の皆様に心より敬意と感謝申し上げます。閉校記念誌に寄せる言葉といたします。



愛藍人・文字（あいらんど・もんじ）

閉校にあたって

栗原市立文字小学校
校長 田代 茂利

明治6年に寺院「洞泉院」を校舎として開校以来、文字国民学校、文字村立文字小学校、栗駒町立文字小学校、栗原市立文字小学校と呼称は幾度となく変わっても、いつの時代も文字地域住民の文化の象徴でありました文字小学校も、139年の長い歴史に幕を下ろすことになりました。

洞泉院は、伊達政宗公の五男宗綱がわずか2歳という幼子でありながら岩ヶ崎城主となった際、その後見として付き添い従事した茂庭綱元が政宗公が薨去された後、采地の門地村に住み、廃絶している古仙院を再興し創建したということです。文字という地名は最初、門地村と書き、後に文字村と書かれるようになり、その当時から文字には文化が生まれ、向学の精神が脈々と受け継がれ、数多くの俊才を生み育み輩出してきました。

文字の皆様にとって母校として、また地域の学校としての歴史と伝統ある学舎には語り尽くせないほどの思い出があり、時代のすう勢とはいえ、この地域から小学校の灯が消えることは万感の思いがあったことと拝察いたします。私も本校の校長として、また文字生まれの一人として、たった1年ではありましたが皆様と同じ思いであり、惜別の念に堪えません。しかし、学舎としての学校がなくなっても、一人ひとりの心の中に文字小学校は生き続けていくことと信じております。

秀峰栗駒山を仰ぎ、鷹ノ巣山を背に、四季折々に織りなす自然を肌で感じ、心豊かな子どもたちの育成を地域の情熱とともに実践してこられた歴代の諸先生方の熱き思いを引き継ぎ、たくさんの思い出づくりに子どもたち、教職員とともに精一杯取り組んでまいりました。「自然にふれる、自然を生かす、自然を守る」活動を推し進め、文字の宝でもある「文字甚句」や「藍染め」の伝統芸能や伝承の産物、お魚さんをつかもう会等、地域の方々と触れ合いを大切にしながら、文字を愛する心、思いやりのある子どもの育成を目指してまいりました。4月から新生「栗原市立鶯沢小学校」となりますが、明るく素直で元気に頑張る文字っ子、本校の校舎に掲示してあるスローガン『ぼくもわたしもやればできるんだ』の精神はいつまでも受け継がれていくものと確信しております。

終わりにになりましたが、本校の閉校にあたり、物心両面からご支援いただきました市当局、地域の皆様、そして熱心に本事業の任にあたられました閉校記念事業実行委員会の皆様、保護者の皆様に心から感謝とお礼を申し上げ、文字小学校が私たちの心の故郷として、皆様の心の中でいつまでも生き続けられることを願い、閉校の挨拶といたします。

山峡の子等が集いし学舎の

心の灯いつまでも



鷹ノ巣山の夏

文字小学校閉校にあたって

栗原市立文字小学校
父母教師会会長 狩野 達也

小学校の校門に立つとその正面にそびえる鷹ノ巣山、校舎の背には栗駒山を望み、二迫川のせせらぎが聞こえる自然豊かな環境の下、地域の皆様の温かい人情と、子供達が学業に励まれるよう惜しみない環境作りにより、近隣にはみられないくらいに文字小学校児童は恵まれてきました。

しかし、年々児童数は減少し、本年度の全校児童数は36名となり、4つの教室、2つの複式学級となりました。

少人数にもかかわらず、先生方のご努力、地域皆様のご理解とご支援により、学習、スポーツ、県、市の各発表会などでも全校生徒が丸丸となって堂々たる成績を修めることが出来ましたこと、必ずや子供たちの糧となることと思います。

明治6年5月に文字に小学校が開校して以来百年を超え、それぞれの年代で、たくさんの思い出の場となってきたことでしょう。あるときは自分の学び舎として、あるときは孫子の学び舎として、そして地域コミュニティの場として皆様とともに発展してきたこと語りつくせぬことと存じます。

人生を振り返ったときに、一番に思い出すのはやはり小学校の思い出ではないでしょうか。小学校の思い出といえば、初めて出来た友達と6年間共に育むことは、人間を形成する中で最も大切です。これからの文字の子供達は、鶯沢小学校に通い学校生活を送ることになりますが、お金では買えないたくさんの友達と思い出を作り、いつか文字の発展の為になることを信じています。

文字小学校が閉校になっても、文字の子供達に今まで以上に励ましをお願いします。

最後に本記念誌編集にあたり、多数の方からの資料の提供、並びにご寄稿戴きまして誠に感謝致します。

又、本誌に掲載されなかった資料も多くあり、各々の年代の思い出、品々がありましたこと、この場をお借りしてご報告いたします。

この事業は、文字学林愛護会様、文字農林組合様の全面協力により成り立つことが出来ましたこと、この紙面をかりて御礼申し上げます。

文字小学校最初で最後の記念誌発行という、重大な作業に資料の収集、原稿の依頼から編集までご苦労されたことと思います。編集委員長を初めとして委員の皆様にご心より敬意を表します。

閉校記念事業として記念碑の建立、閉校記念誌の編集にご尽力頂いた皆様にご心より感謝するとともに、記念誌発行の言葉に致します。



鷹ノ巣山の秋



年号	月	歴代校長名	代	児童数	沿革
明治	6	狩野 貯岳	初		小学校を創立、寺院「洞泉院」を校舎とする。
	8				下等科を設置
	12				校舎新築
	10				分校校舎を新築。内屋敷分校と称する。
	14				初等科を設置
	17	山下 一志	2		
	18	梶目進一郎	3		
	19				尋常科を設置
	21	加藤慶五郎	4		
	22	千葉熊五郎	5	79	
	7				内屋敷分校を独立し、内屋敷簡易科と称す。
	24	5			簡易科を廃して尋常科を置き、角ヶ崎分教場とする。
	25	4			独立して角ヶ崎尋常小学校と称す。
	28	10			校舎増改築竣工
33		佐藤 新助	6		
38	11			118	文字実業補修学校を併設。通年制2ヵ年とする。
大正	7	菅原弥太郎	7		
	13				高等科(2ヵ年)を併設し、文字尋常高等小学校と改称する。
	14	木村 滙了	8		
	15	棟形久太郎	9		
昭和	3				角ヶ崎尋常小学校を合併、角ヶ崎分教場とする。
	5				本校校舎竣工
	6	鹿野 英吉	10		
	8	高橋比登志	11		
	10	菅原弥太郎	12		
	12	4			文字下放森背齒ノ沢入口に杉苗1,300本学校林として植栽
	5				文字上加賀堂に松苗1,560本学校林として植栽
	14	4			文字上加賀堂に松苗1,500本学校林として植栽
	10				文字上加賀堂に松苗8,600本学校林として植栽
	16	4			国民学校令により、文字国民学校と改称
	18	秋山 英夫	13		
	10				校歌制定(歌詞:白鳥省吾氏、曲:長谷峯治氏)
	21	菊地 勝見	14		
	4				職員室に電話機設置
	22	佐々木 茂	15	442	
	4				学制改革により、文字村立文字小学校と改称
	27	阿部 盛	16		
28	5			給食調理室竣工	
30	小泉 本治	17			
4				町村合併により、栗駒町立文字小学校と改称	
32	高橋 盈	18			
33	4			306	文字小学校内に文字幼児学級として発足(週2回の保育)

※太字は文字幼稚園の沿革





年号	月	歴代校長名	代	児童数	沿革
昭和	38			229	屋内体育館の引継を受ける。
	39	岩槻 皓雄	19		
					幼児学級週3回制となる。
					屋内体育館通路及び倉庫竣工
	40			192	自転車置場竣工
	41				特別教室（理科室・図書室）設置
	42	鴫田 隆夫	20		
	44	早坂 哲郎	21		
	45	小林 正一	22		
	46			99	栗駒町立文字幼稚園を設置する。（文字小学校内に併設）
	47	磯部 兼寿	23		
					準へき地学校の指定を受ける。
					簡易プール竣工
	48	佐藤 信一	24	90	
					創立百周年記念事業により、校旗購入備付
	49				科学巡回指導 郡へき地教育研究会公開発表
	50	菅原 義孝	25	72	
	51				土俵場造成
	52				科学巡回指導
	53	3			
		佐藤 司	26		
9					日本青少年赤十字に加盟
11					新校舎竣工
54		4		64	文字幼稚園新園舎落成
54	10				子ども貯蓄組合表彰（県知事） 環境緑化努力賞（県教委） 花壇コンクール優良校（緑の会）
	11				特別活動（学級会活動）自主公開
	55	4			県教委より2ヵ年の学習指導（体育）研究指定を受ける。 日赤宮城支部より青少年赤十字研究協力校の委嘱を受ける。
55	10				県教委指定学習指導（体育）中間公開発表
	11				県青少年赤十字活動功労賞（日赤） 花壇コンクール優秀賞・読売賞（緑の会） むし歯をなくす運動表彰（日本歯科医師会）
	56	4			文字幼稚園青少年赤十字に加盟
56	6				科学巡回指導
	10				学校周囲花壇造成・相撲場設置・校庭整備完了（200m・6コースセパレートコース完備） 県教委指定学習指導（体育）並びに青少年赤十字研究協力校の公開発表
	11				県PTA大会において、本校PTAが表彰を受ける。 宮城県福祉教育発表会において、本校福祉教育について発表 全日本よい歯の学校表彰を受ける。 学校緑化コンクール入選（県知事賞・県教委委員長賞・佐々君治山報恩会賞） 学校花壇コンクール特選（緑の会会長賞・県知事賞・読売新聞社賞・NHK 仙台放送局局長賞）

※太字は文字幼稚園の沿革





年号	月	歴代校長名	代	児童数	沿革	
昭和	56				屋内体育館落成	
	57			72	読売教育賞（研究実践）受賞 校地西側舗装工事	
					校地周辺のフェンス設置	
					屋体通路防雪塀設置	
					全国学校体育優良校として全国表彰（全国体育研究会・文部省賞） 優良子ども銀行として表彰（大蔵大臣賞） 学校保健安全優良校として全国表彰（文部大臣賞） 「愛の池」寄贈	
					むし歯治療優良として表彰（全国歯科医師会） 学校緑化コンクール入選（県知事賞・県教委委員長賞・佐々君治山報恩会賞）	
	58		星 金伍	27		
		6				町水道施設設置完了
		9				香港の海外青少年赤十字担当者・ウーワイミン氏来校、本校 J R C 活動の現状について視察
		11				学校緑化コンクール入選（県知事賞・県教委委員長賞・佐々君治山報恩会賞） よい歯の学校表彰（県歯科医師会）
	59					
	7				プールに町水道設置	
	11				第3回宮城ふるさと音楽祭参加（県民会館） 学校緑化コンクール入選（県知事賞・県教委委員長賞・佐々君治山報恩会賞）	
60		新沼 秀三	28	70		
	10				科学巡回指導 日本赤十字宮城県支部長（知事）より本校 J R C 活動に表彰を受ける。	
	12				町水道校舎に直結 文字幼稚園に物置設置	
61						
	4				体育館に暗幕備付	
	7				プールのビニールシート張り替え工事	
	10				宮城県ふるさとフェア出演（文字甚句披露）	
	12				校内テレビ放送施設設置	
62		土井 憲勝	29			
	5				校舎東側に校門設置工事	
	10				日本赤十字宮城県支部長（知事）より研究協力校として表彰を受ける。	
63				63	青少年赤十字より表彰される。	
平成	元			116	角ヶ崎小学校と統合する。 角ヶ崎幼稚園と統合する。	
	4					
		8				スクールバス配車、駐車場設置
		9				学林愛護会よりピンスポット・フットライト寄贈
		11				県知事、県緑化委員会より学林愛護会が表彰を受ける。
	2					
		1				へき地一級の指定を受ける。
			佐々木武夫	30		
		4				特殊学級設置
		10				校舎北側道路舗装
		11				学校環境緑化コンクール入選
		12				学林愛護会より学校図書寄贈

※太字は文字幼稚園の沿革





年号	月	歴代校長名	代	児童数	沿革
平成	3				小学校との連絡通路を設置する。
	11				学校花壇コンクール特選、学校緑化コンクール準新設特選、窯場新設
4		稲邊 俊朗	31	96	
	4				開校記念日の制定（4月25日） 文字幼稚園開園記念日の制定
5	11				宮城県学校緑化コンクール特選
	2				全日本学校関係緑化コンクール入選 緑化県特選・全日本入選記念碑建立
	4				児童生徒のボランティア活動普及事業協力校に指定（3ヵ年）
6	9				校庭東側花壇設置
	11				体育館建築記念碑建立
	3				街路灯設置
7		佐藤 敬夫	32		
	3			85	通用門から玄関までの通路・用水路フェンス設置
8		鈴木 茂	33		
	5				校舎2階テラス支柱付け替え
	12				ボランティア活動普及事業協力校の実践発表
9	3				新プール完成、スクールバス車庫移転
	8				全国ジュニア陸上大会において、6年女子100m走全国優勝
10	3				コンピュータ室完成（11台設置）
	8				スクールバス更新
	10				体育館袖幕等取り替え
11		木村 拓郎	34	79	
	4				特殊学級設置 環境教育研究協力校に指定（2ヵ年）
	8				4歳児保育室設置
	9				幼年消防クラブ結成
12	4				2年保育実施
	9				宮城県健康な口腔とよい歯の小学校入選 宮城県歯科医師会より優秀園受賞
13	4				肢体不自由児学級設置
	9				宮城県健康な口腔とよい歯の小学校入選 宮城県歯科医師会より優秀園受賞
14		白鳥 健二	35	62	
	11				各教室FF暖房機設置
15	3				コンピュータ20台入替
	12				「心をはぐくむ教育活動」指定の公开发表
16	5				アルミ缶回収事業開始
	9				ハタケシメジ栽培開始
17	1			66	「心をはぐくむフォーラム」の公开发表
		佐藤 達也	36		
17	12				校舎屋上防水シートの張り替え工事
	4				市町村合併により、栗原市立文字小学校と改称 栗原市立文字幼稚園と改称

※太字は文字幼稚園の沿革





年号	月	歴代校長名	代	児童数	沿革	
平成 18		赤間 彰	37			
	9				宮城県歯科医師会より優秀園受賞	
	19	7		55	相撲場四つ柱取り替え工事 栗原市北部水泳大会リレー男女共優勝等多数活躍	
		8			校庭遊具塗装改修	
9				宮城県歯科医師会より優秀園受賞		
20		武田 邦俊	38			
	6				岩手・宮城内陸地震発生	
	10				体育館音響設備置	
	12				地震復旧工事終了（校舎、体育館、プール）	
21	4		47	2・3年複式学級となる。		
	8			コンピュータ入替		
22	3			デジタルテレビ設置		
23	3				東北地方太平洋沖地震発生（東日本大震災）	
		田代 茂利	39	37		
	4					東日本大震災のため、新学期が一週間遅れて始まる。 2・3年及び4・5年が複式学級となる。 学力向上サポートプログラム事業の指定を受ける。
	6					東北地方太平洋沖地震で破損したプールの改修工事
24	3			139年の歴史に幕を閉じる。 文字幼稚園41年の歴史に幕を閉じる。		

※太字は文字幼稚園の沿革



鷹ノ巣山の春





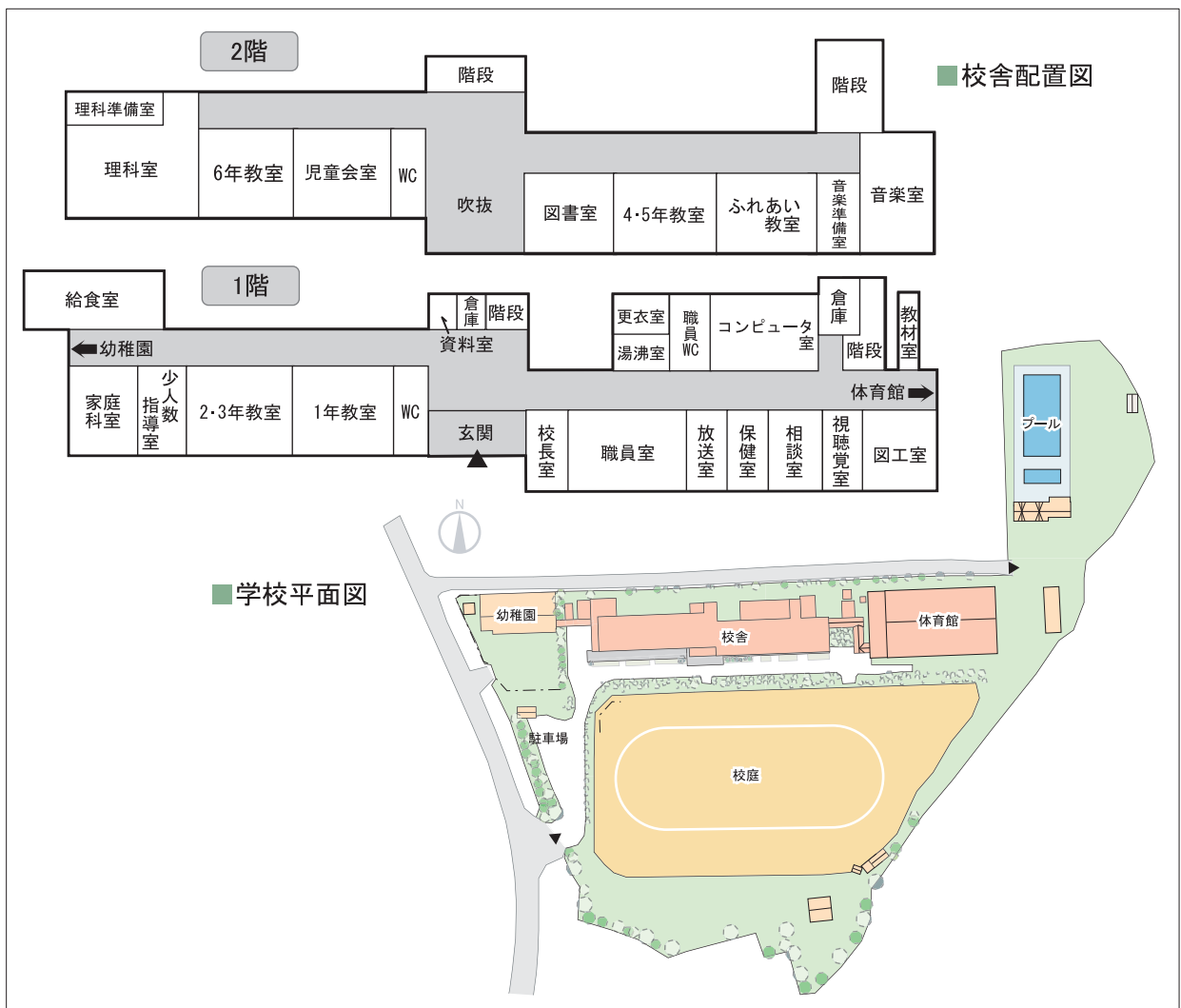
■学区の概要

本校学区は、栗原市北西部に位置し、地域面積の約90%は山林で占められている。かつては、豊富な山林資源を唯一の生業基盤とする地域であったが、近年は、その様相が大きく変わり、ほとんどが兼業農家で、市内企業等での共働き家庭が多くなっている。

保護者や地区民の教育に対する関心は高く、PTA活動も熱心である。

本校学区でも少子化が進み、21年度より複式学級が1クラス設置され、23年度からは、新たに1クラス増設された。児童は明るく素直で純朴であり、山紫水明の豊かな自然環境の中で心身ともに健やかな成長をしている。

社会性、自主性を一層伸ばし、将来社会で活躍する人間となることを目指している。





文字小学校 校歌

白鳥省吾 作詞
長谷峯治 作曲

あ た ご の も り の あ さ ほ ら け あ
 お ぐ く り こ ま た か の す の や
 ま う る わ し く は さ ま が わ
 な が れ も き よ き わ が も ん じ と
 も に は げ ま ん き ょ う も ま た

校歌

作詞 白鳥省吾
作曲 長谷峯治

一 愛宕の森の 朝ぼらけ

仰ぐ栗駒 鷹の巣の

山うるわしく 迫川

流れも清き わが文字

ともに励まん 今日もまた

二 学び舎の窓 輝きて

耕す人や 歌う鳥

心ひとつの 山里も

世界の道に 続くなり

ともに勉めん 肩組みて

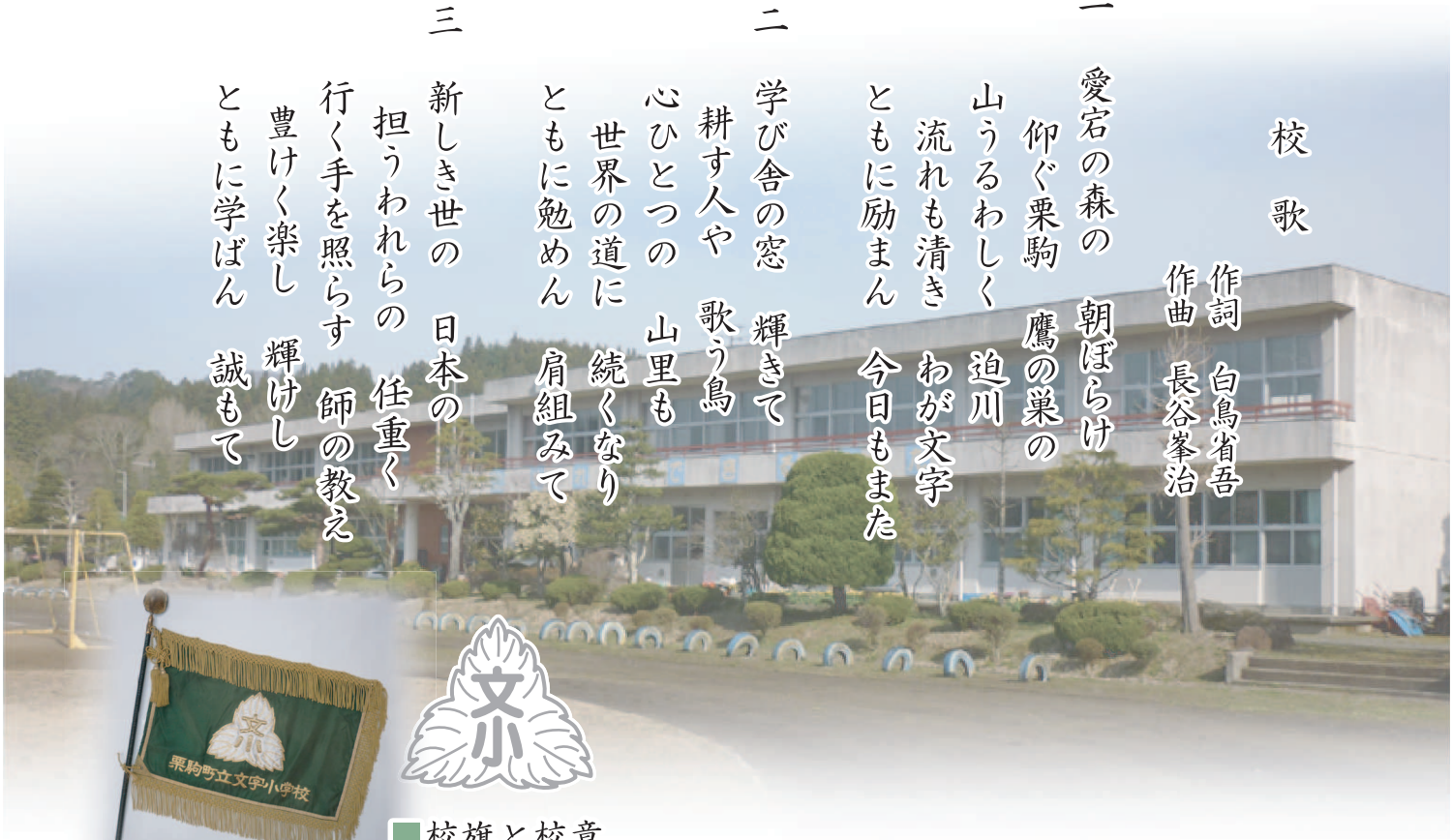
三 新しき世の 日本の

担うわれらの 任重く

行く手を照らす 師の教え

豊けく樂し 輝けし

ともに学ばん 誠もて



校旗と校章





歴代校長

初代	明6～明17	狩野貯岳
第2代	明17～明18	山下一志
第3代	明18～明21	梶目進一郎
第4代	明21～明22	加藤慶五郎
第5代	明22～明33	千葉熊五郎
第6代	明33～大7	佐藤新助
第7代	大7～大14	菅原弥太郎
第8代	大14～大15	木村灌了
第9代	大15～昭5	棟形久太郎
第10代	昭6～昭7	鹿野英吉
第11代	昭8～昭9	高橋比登志
第12代	昭10～昭17	菅原弥太郎
第13代	昭18～昭20	秋山英夫
第14代	昭21	菊地勝見
第15代	昭22～昭26	佐々木茂
第16代	昭27～昭29	阿部盛
第17代	昭30～昭31	小泉本治
第18代	昭32～昭38	高橋盈
第19代	昭39～昭41	岩槻皓雄
第20代	昭42～昭43	鴫田隆夫
第21代	昭44	早坂哲郎
第22代	昭45～昭46	小林正一
第23代	昭47	磯部兼寿
第24代	昭48～昭49	佐藤信一
第25代	昭50～昭52	菅原義孝
第26代	昭53～昭57	佐藤司
第27代	昭58～昭59	星金伍
第28代	昭60～昭61	新沼秀三
第29代	昭62～平元	土井憲勝
第30代	平2～平3	佐々木武夫
第31代	平4～平5	稲邊俊朗
第32代	平6	佐藤敬夫
第33代	平7～平9	鈴木茂
第34代	平10～平12	木村拓郎
第35代	平13～平15	白鳥健二
第36代	平16～平17	佐藤達也
第37代	平18～平19	赤間彰
第38代	平20～平22	武田邦俊
第39代	平23	田代茂利

歴代父母教師会会長

初代	昭32～昭35	四ノ宮省吾
第2代	昭36～昭37	菅原守
第3代	昭38～昭42	千葉道雄
第4代	昭43～昭44	菅原哲夫
第5代	昭45～昭47	千葉熊夫
第6代	昭48～昭53	千葉毅
第7代	昭54～昭57	大場武雄
第8代	昭58～昭59	菅原隆雄
第9代	昭60	小野寺洋一
第10代	昭61～平元	菅原一彦
第11代	平2～平3	菅原道夫
第12代	平4～平6	菅原律男
第13代	平7～平8	森下初男
第14代	平9～平11	菅原敏元
第15代	平12～平13	菅原徹
第16代	平14～平15	渡辺孝義
第17代	平16	三浦則義
第18代	平17	四ノ宮健治
第19代	平18～平19	千葉厚
第20代	平20～平21	中條英明
第21代	平22～平23	狩野達也



旧校舍航空写真



子どもの頃の思い出

阿部 かづみ（新田地区）

入学したのは大正5年の4月でした。

同級生は確か12人で一番少ない学年でした。当時は複々式で1・2・3年生が下の教室。4・5・6年生は2階の教室で勉強していました。1階には教室の他に「たまり」という広い場所があって炉がありました。冬には火を入れて濡れたつまご草鞋を乾かしたものでした。

先生は学校前の小林隆史校長先生とお寺の小野みのる先生の二人でした。下の学年でも唱歌（音楽）の時は2階の教室で勉強しました。オルガンは1台だけで2階の教室にあったからです。唱歌は小野先生が教えるので上の学年が唱歌の時は小林先生に歴史を教えてくださいました。私は歴史の話聞くのが好きで、楽しみにしていたものです。勉強は、国語、書き方、算数、歴史、図画工作、修身、体操などがありました。

運動会や学芸会もありました。運動会は校庭が狭いので、加賀堂の上に行ってやったものです。学芸会では楠正成の劇をやったのを覚えています。とても上手にできたというので、山口にあった文字小学校に行って見せたのを覚えています。

当時の履き物は下駄か草履で、冬はつまご草鞋でした。シンベエという藁で作った長靴を履いてくる人もいました。シンベエは作るのが難しいので履いて来る人は僅かでした。雨が降ると下駄や草履は濡れるし、花緒も切れてしまうので、雨の日は履き物はしまって裸足で学校に通ったもので、学校の脇の小川で汚れた足を洗って校舎に入ったものでした。

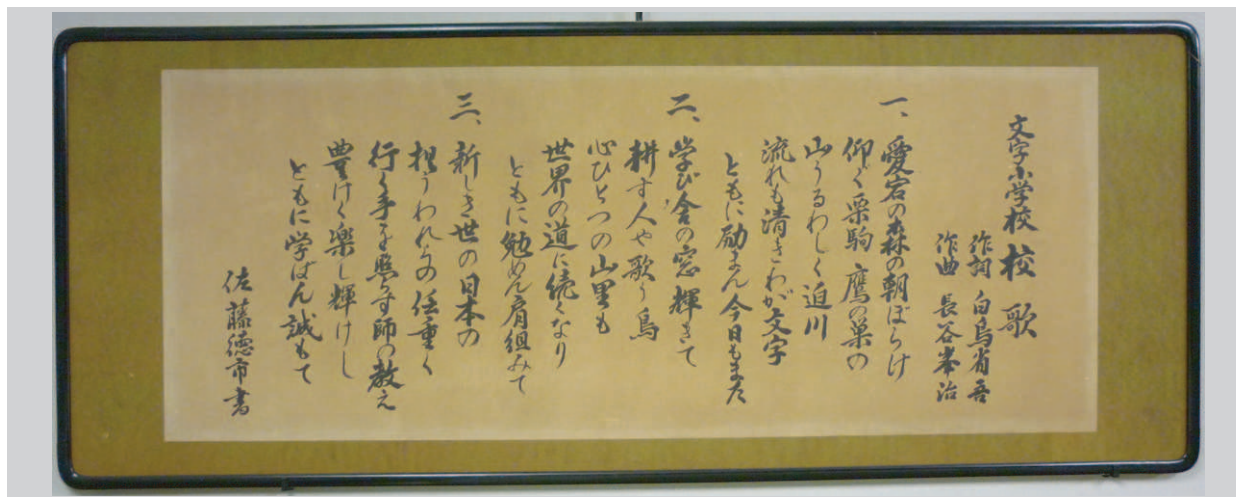
冬はたまりにある炉のまわりに濡れたつまご草鞋を並べて乾かしたものでした。お昼のおにぎりも冬は温めて食べました。私の頃は冬休みが長くて1ヶ月位あって夏休みは短かったと思います。

学校での遊びはベースボール（ベースボール）、縄跳び、鬼ごっこなどやりました。ベースボールはとても面白くて男も女も一緒にやりました。学校から帰っても家の上にある広い原っぱに集まってみんなで遊んだものです。冬はそり滑りが多かったと思います。

6年生を卒業すると補習科というのがあって、山口にある文字小学校に通いました。岩ヶ崎にある高等科に入った人もいますし、補習科に行かないで6年生で終わりにした同級生もいました。その当時は道路が狭くて悪く、特に「ザクゾレ」の所は今お墓になっている山の上迄上ってから岩井田に下りるのでした。雨の日などはとても歩きにくくて、学校に行くのを諦めてそのまま家に戻ったこともありました。

文字小学校が閉校になるというのを聞き、とても残念です。

文字小学校校歌





文字と謂う名の誇り

高橋 今雄（下文字地区）

今から約70年前、私が仙台市の旧制中学校に在学中で、当時高専生や大学生向きの下宿屋に特に頼んで下宿させてもらっていた時の話です。

隅々隣の部屋に遠く兵庫県加庫川市出身で、旧制一高（現東大）から東北大学航空工学科に進み飛行機操縦や整備のライセンスを全部取得されていたMさんという大学生が居られました。或る日、Mさんから「高橋君、あなたの出身地は何処かね」と尋ねられたのです。そこで私は「宮城県最北端で文字村という田舎です」と答えた。すると彼は「モンジとはどういう字ですか」と再度申された。私は「文章の文と漢字の字の二文字です」と話した。

彼また曰く、「いやはや珍しい村の名前ですね。地図を見れば東北の屋根と言われる奥羽山脈のど真ん中、栗駒山の麓で山に囲まれた田舎が、明治維新の市制・町村制の公布によって文字村という村の名前になったのでしょが、文字というこの字はとてもシンプルでしかもスマートで古くさい田舎という感じは全然しない。むしろ意味深長で『学』さえ覚える名前だね。もし大相撲のような全国町村名の番付表があれば文字村はまさしく東の大横綱格だよ。東北の片田舎で決して経済的に豊かではないが、精神的には礼儀や教育を重んずる心豊かな村人達が住む集落であったのに由来したのではなからうかと想像されるね」など大変な誉め方をされたのです。

そこで私は、「明治23年の第1回衆議院議員に宮城県を代表して全く僻地の我が文字村から選出されているのです。そのほか著名な教育者や軍人又は医師などいずれの方も村の農家の子弟から輩出しています。」と話すと、M氏は成程成程と頷きながら次のような話をされたのです。「高橋君、君は素晴らしい故郷に生まれたよ。大いに誇りと自信を持ちなさい。決して俺は田舎者だ。俺は百姓の子だなどと劣等感をもったり或いは肩身の狭い思いをしたりする必要など全然ありません。むしろ俺は文字生まれだと自慢しながら堂々と生きなさい」と。

そうした熱を帯びた会話があたかも昨日の出来事のように思い出されます。実は私達大正末期から昭和初期にかけて生まれた者達も、既に85年の歳月を経て今日に至っておりますが、私達の青春時代は決して明るい時代ではありませんでした。満州事変、支那事変そして大東亜戦争とまさに軍国主義時代そのものでした。こうした時代背景にあって私は故郷を離れ、仙台の学校また東京の学校さらに旧満州の学校へと進学できたのも元をただせば文字小学校時代に諸先生方より基礎的知識を徹底的に指導して戴いたからこそ上級学校の激しい競争にも耐えられたものと、今でも深く深く感謝しているところです。

今回、市の教育行政改革の一環として百三十有余年の歴史を持つ我らにとって最も懐かしい文字小学校が閉校になるとのことですが、思えば戦時中、忠魂碑の前で出征兵士を万歳三唱で見送った小学校時代、絵本も玩具もお菓子も何も無い、それでも明るく元気で雨の日は裸足で、雪の日は藁靴で、上級生を先頭にして深い雪の中を4kmも5kmも歩いてばかり通学した文字小学校時代、今でも走馬灯のように思い出され本当に懐かしい限りです。閉校になると聞き誠に感無量のことです。

しかしこれも時代の流れでしょう。たとえ文字小学校という形は無くなっても文字小学校で学んだという無形の財産を自分たちはおろか子や孫へ、そして曾孫へと万代の宝としてまた誇りとして末代まで語り継ぎ、サイタサイタ サクラガ サイタ の読本を口遊みながら今後の余生を静かに送りたいと念じておるところです。





文字小学校の思い出

昭和19年度卒業
菅原 敏允 (川西地区)

私が入学したのは、今から73年前の昭和14年の4月で「文字尋常小学校初等科」という校名でした。そして3年生の時には国民学校令が発せられ、校名が「文字国民学校」と改められたのでした。その当時の児童数は大変多く、私たちは1学級で68名と教室が狭いくらいでした。

そして昭和16年12月8日にはあの大きな戦争「大東亜戦争」が勃発し、その頃から学校は勉強どころではなくなったのです。食料不足から、校庭を畑にして耕したり、食料増産のための奉仕作業など、高学年は特に野外での学習が多くなったのでありました。山口の奥地から炭を運ぶ作業の日が続きました。当時木炭は発動機や自動車の燃料に利用されるなど大変重要なものでした。

一方、文字村からの出征兵士が多くなり、毎日のように中文字の忠魂碑の前に集まり、式典の後「万歳万歳」で見送る日々が続いたものでした。

またこの頃から防空法が制定され、疎開命令により、東京からの学童集団疎開が始まりました。一般人の「縁故疎開」も促進され、私の家にも東京から叔父夫婦が疎開してきました。さらに、「知識人の疎開」というものもあり、東北帝国大学の教授なども疎開してきたのでした。

昭和18年、私が5年生の時でした。ピカピカの剣をさげた偉い軍人さんが学校に現れました。その軍人さんこそが校歌と炭焼きの歌を作曲した先生でした。この方は仙台第二師団の軍楽隊長、長谷峯治先生だったのです。わざわざ歌の指導のために来校されたのでした。私は、今でも強い印象を受けております。

また、校歌の作詞は郷土の詩人白鳥省吾先生でした。時代に合った素晴らしい校歌でした。しかし、終戦後、一部が作詞者の先生の手により修正されました。現在の校歌は、修正後の校歌なのです。修正が記された原稿は「白鳥省吾記念館」に今でも展示されております。

炭焼きの歌の作詞者は、師範学校を卒業して赴任した一迫出身の熱海寛先生でした。炭焼きの歌はテンポの良い行進風の曲でした。学校行事や奉仕作業の行き帰りなど、毎日のようにみんなで歌ったものです。炭焼きの歌は各地で大評判になりました。そして、その歌が、仙台放送局よりラジオで全国放送されることになったのです。そのため、全校児童より歌う人の選考となりました。その結果、男子は5年生の私と女子では4年生の寛子さんの2人が選ばれました。出演が決定し、村松茂子先生による個別指導を受けることになりました。当時学校にはピアノがなく、オルガンの伴奏による猛練習を受けました。親たちも大変喜び、物資不足のおり苦労して求めた新しい服を着せられたのでした。いよいよ明日、仙台放送局に出発となったとき、B29による「東京大空襲」そして仙台も空襲ということで、この放送は延期となったのでした。残念ながら、その後ラジオ放送の話はありませんでした。

私は昭和20年3月、文字国民学校を卒業し、旧制県立栗原農学校で終戦を迎えましたが、80歳になった私たちの同級生は今でも、旧校歌と炭焼きの歌を歌い、旧交を温め合い思い出話に花を咲かせています。文字国民学校当時、どんなに辛くともみんなで歌える歌がありました。力強く歌を響かせてきました。その精神力こそが私たちの人生の宝物です。

「文字に生まれてということなし。人間は与えられた条件の中で最大の努力をしなければならない。」
「私の心情より」





文字小学校の思い出

昭和35年度卒業
菅原 章（山口地区）

文字小学校を卒業して50年あまりとなりますが、過ぎ去る年月は早いものです。当時の小学生としては、今年の3月で文字小学校が閉校になり鶯沢小学校と統合されるなどとは予想も考えもつかない事だと思います。

私たち昭和23年生まれは「産めよ、増やせよ」の時代であった終戦直後の世の中に生を受けた世代です。お寺（洞泉院）で今でいう幼稚園を経験したいわば幼稚園の第1回卒業生ともいえます。文字小学校への入学時には揃えの洋服を着て、現在地の校門の前で小泉校長先生と担任の菅原京子先生と一緒に記念写真を撮った記憶がよみがえります。

職員室前に二宮金次郎の石像があり、校舎は木造建築でだいぶ古くなっており、春、夏は居眠りも入って快適に過ごせても、秋、冬になると寒くなったものでした。冬は日直当番に当たった者が焚き付けの杉の葉、薪を持って朝早く登校してダルマストーブに火をつけて教室を暖めるのですが、なかなか火がつかず難儀な思いをしたものです。

何しろ校舎が古く、そちらこちらからすきま風が入るので大変寒い。ストーブのまわりにみんなの弁当を置いて保温したものでした。待ちに待った昼食時間。おかずは、梅干し、昆布の佃煮、納豆、そばろをご飯の上にのせ、良くてたまご焼き、魚などはもってのほかとさまざまでしたが楽しい一時でした。

今は学校にプールがあり水泳の練習などには恵まれておりますが、私たちの時代はプールはなく、水泳といえば高橋の橋の下が私たちの天然プールで最高の練習場所でした。北部水泳大会が開催される頃、まだ水温の上がない初夏に橋の下での練習が始まり、皆で泳ぎの練習をしたものです。当時、水泳大会は若柳小学校のプールが会場でした。なにせ文字からの出場でしたからスタートの仕方、泳ぎ方はそのとおりの姿でございましたけれども、個人種目で優勝、団体に上位入賞するやらで、文字小の水泳がこんなにやるのかとびっくり仰天されたものです。「山中の小学校、天然プールで」と新聞報道で「文字小水泳ここにあり」と全国に名声を高めたのもこの頃です。当時を偲ばせるものは水泳練習の為に作った飛び込み台のみとなりましたが、私たちの小学生当時の活躍場所としては最高の場所でした。芭蕉の句に「夏草や つわものどもが 夢の跡」とありますが、なにかもがずっと昔の思い出となりました。



旧校舎





閉校に寄せて

昭和44年度卒業
菅原 才知（下文字地区）

明治6年の開校以来、「文字小学校」と称して文字地区の初等教育の一役を担ってきました。

私が入学した昭和30年代末には、文字小学校は、文字地区の商店街、常勤の医師がいる診療所、床屋、農協等がある一等地に位置し、地域のシンボルとして存在していました。

栗駒山に抱かれ、豊かな大自然に包まれ、校舎の傍らには清らかな二迫川が流れ、山や田畑の緑に囲まれた「文字小学校」。

心温かく人情味豊かな地域の皆様に見守られ続けて、団結力とパワーあふれる保護者の皆様に支えられた「文字小学校」。

とうとうその長い歴史の幕を閉じるときがやってまいりました。

思い起こすと、私が文字小学校に入学したときは、世の中にやっとテレビが普及し始めた頃でした。今のように物資豊かな時代とは違い、各家庭でも自転車さえなく、徒歩での通学でした。朝、通学途中に一人増え、また一人増えと近所から集まりだして自然と集団登校になったものでした。高学年の児童が低学年の児童の面倒を見、自然と次の年代に引き継がれたものです。

下校した後の田圃でのボール遊び、夏には川での水泳、冬は近所の牧草地でのスキー等々、近所の子も達が集まって遊んだものでした。現在でも鷹巣山への登山、小手川でのお魚さんつかみ等自然と対話する機会がいっぱいあったのに、閉校と同時に出来なくなるのかなと思うと寂しい気がしてきます。

あまり思い出ばかり書くと長くなり、寂しく残念な気持ちだけになりますのでこの辺で終わりにしようと思いますが、天下に誇れるこの文字小学校の歴史と伝統と誇りが、どうか末長く語り継がれていくことを心から願ってやみません。本当にありがとうございました。

文字小学校は、私たちの心の中に永遠に生き続けます。



スポーツ三昧の3年間

平成3年度卒業
菅原 伸（新田地区）

私にとって小学校の閉校は二度目となります。小学校3年生迄角ヶ崎小学校に通い、4年生の時に文字小学校に来ました。当時は「学校が一緒になる。」という程度で、学校がなくなるという悲しさや寂しさは無く、ただドキドキしていた事を思い出します。

統合したての頃は、児童数は100人以上いたと思います。しかし、尾松小学校や岩ヶ崎小学校よりも人数は少なく、春から秋にかけては様々な大会に向けてひたすら練習したことが一番印象に残っています。

春は相撲から始まります。まだ肌寒い中、土俵の上での練習。今では女の子の大会もあるようですが、当時は男子だけで、4年生以上は全員参加でした。今は分かりませんが、私が在学中に文字小学校を会場にした相撲大会が一度だけあり、文字地区の皆様方に熱く応援していただいたことをはっきりと覚えています。

夏になれば水泳が始まります。私達の頃は「文字は川で泳いでいるから水泳が強い」と言われたことがありました。実際に川で泳いだことはありませんが、先生方の力の入れようがすごく、あんまり練習がきついで本数をごまかすことも結構ありました。お陰さまで卒業してから20年になりますが、いまだに私の記録が残っているようで、密かな自慢になっています。

秋が来れば陸上。私が4年生の頃は文字小学校が会場だったような気がします。4年生の男女混合リレーに裸足で、5年生の時も100m走を裸足で走った記憶があります。今では考えられませんが、当時は裸足の方が速く走れると思っていました。

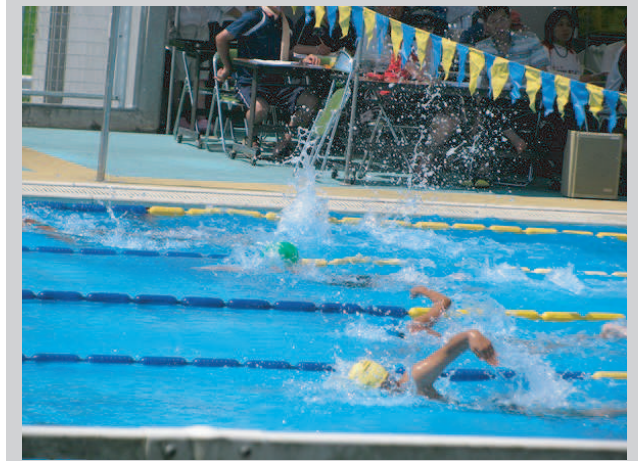
統合してから1年目よりも2年目。2年目よりも3年目と大会での成績は伸びていきました。特に、私達が6年生になった統合3年目は過去に類を見ない程の成績だったと思います。

今思えば、文字小学校に来てからの3年間は新しい仲間が出来ただけでなく、熱心な先生方に恵まれて、両親に支えられ、スポーツ等を通して地域の方々に応援していただき、とても充実した日々が送れたと感じています。時代の流れで、学校や子供達を取り巻く環境が変わってきていますが、私の小学校生活は幸せな時期に幸せな時間が過ごせたように思えます。

今年で閉校になってしまうのは寂しいですが、今の子供達が新しい学校で素晴らしい学校生活を過ごせることを願っています。



夏祭り相撲大会



北部小学校水泳大会



文字小学校での思い出

平成21年度卒業
千葉 穂乃香 (川西地区)

私の文字小学校での思い出といえば、全てが宝物で忘れがたい思い出ですが、特に自然に恵まれた文字でしかできない行事が心に残っています。

一つめは、鷹巣山登山です。登山日は文字小学校の開校記念日となっていて、文字の歴史をも思わせる行事でした。縦割り班で楽しく山の草花を観察したり、おしゃべりしながら頂上まで登りました。山の空気はとてもおいしく、頂上から見る景色は最高でした。中には登山中、下山中に野生のクマやカモシカを見た人もいました。自然豊かな文字小学校ならではの行事でした。

二つめは、お魚さんをつかもう会です。学校の近くの川にイワナを放して、冷たくても必死になって魚をつかまえたことは今でもいい思い出です。捕った魚をさばくのを手伝ったり、魚を串に刺して焼くのを手伝ったりしました。自然の中でみんなと食べる魚は一段と美味しく、改めて命をいただくことのありがたさや「いただきます」の言葉の意味を考えさせられる会でした。

三つめは、ぎんなん洗いです。校内にある大きなイチョウの木は、夏になるときれいな緑色の木になり、秋になると金色に輝く木になり、葉が散ると辺り一面金色のカーペットのようになり、雄大な自然を味わうことができました。やがて寒くなってくるとぎんなんがなり、1~3年生はそれを拾い、5・6年生が洗います。冷たい水に触れながらもみんな協力して洗った事を覚えていません。洗ったぎんなんは乾燥させて、それを4年生が袋詰めします。限られた時間の中でやらなければいけないこの作業が1番大変でした。時間が限られていたので、残れる人は残って少しでも早く終わらせようと一生懸命やった事も、今ではいい思い出です。そして、自分の地区内で届ける所を分担し、地域の方々に配ります。地域の方々は「美味しかったよ」と言ってくれたり、手紙をくれたりしてとても喜んでくれました。私としては、地域のためにも文字っ子のためにも、せめてあのイチョウの木を残してほしいです。

四つめはそりすべりです。自分のそりをそれぞれ用意し、近所の牧草地まで歩いて行きました。すべる距離が長いので、時には転がってしまうこともありましたが、楽しくて何度もすべりました。また、いろいろな種類のそりがあったので、友達とそりを交換したり、そりをつなげたり、みんなと一緒に乗ったりしました。先生達とすべったことも楽しい思い出です。

五つめは、水泳練習です。文字小学校は他校よりも比較的練習量が多いといわれてきました。寒い中での厳しい練習と、先生方の熱心な指導が実を結び、大会でも歴代文字小学校は優秀な成績を収めてきました。「練習は嘘をつかない」という言葉があるように、練習は必ず結果につながります。だから文字っ子のみんなには、これからも文字小のスローガン「ぼくもわたしもやればできるんだ」を忘れずに、何事も一生懸命取り組んでほしいと思います。

文字小学校は人数の少ない学校ではありましたが、先生方の生徒一人一人に対する熱い思いと指導、保護者の方々や地域の皆様のご協力、豊かな自然があったからこそ、私達はたくましく成長することができました。そして、楽しい思い出もたくさんできました。私は、文字小学校に関わってきた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この素晴らしい文字小学校を卒業できたことを誇りに思います。そんな文字小学校の歴史と伝統が終わり、閉校になってしまうことを本当に残念に思います。でも、この文字小学校で養われた力を今後発揮・活用すべく、何事にも精一杯頑張っていきます。





栗駒地区夏祭りに出演
文字甚句

文字の伝統



藍染め





文字小学校の教育
ぶなの木会交流





文字小学校の教育
運動会





文字小学校の教育
運動会





文字小学校の教育
遠足（大崎市）





文字小学校の教育

宿泊学習

(花山少年自然の家)





幼稚園ダンス「マル・マル・モリ・モリ」



幼稚園踊り「文字甚句」



1年「はじめのことば」



2・3年劇「どっこいしょ」



全校合唱奏「文字甚句による幻想曲」

文字小学校の教育
学芸会

4・5年劇「走れメロス」



6年「おわりのことば」

6年劇「はだしのゲン」





児童会「1年生を迎える会」



お魚さんをつかもう会

文字小学校の教育

児童活動



ぎんなん拾い



ぎんなん洗い



ぎんなん袋詰め

そば打ち体験





そりすべり教室
ハタケシメジ栽培



マラソン大会



児童会「なわとび大会」

文字小学校の教育

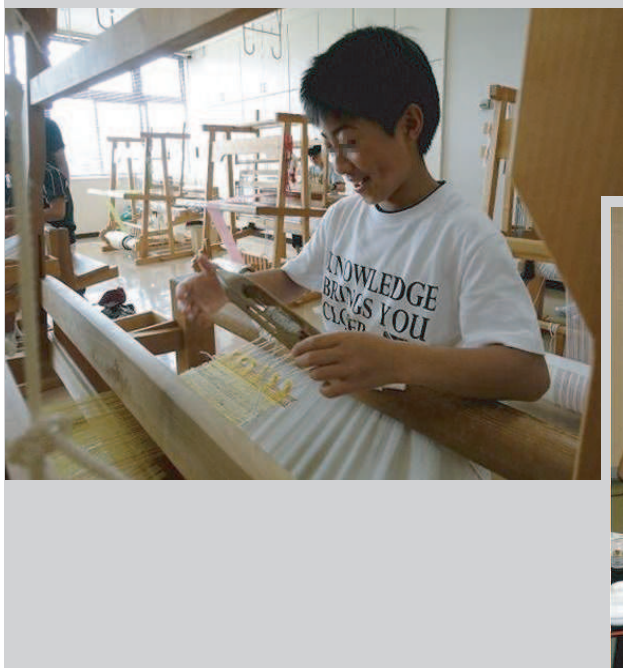
児童活動

バイキング給食





文字小学校の教育
修学旅行(盛岡・花巻)





栗原市小学校陸上競技大会



北部小学校水泳大会



夏祭り相撲大会



東北学童相撲大会



文字小学校の教育

陸上・相撲・水泳・音楽祭



栗原市音楽祭「文字甚句による幻想曲」



第7回 栗原市小中学校音楽祭

